

Kwansei
Archives



Gakuin
Lectures

第59回

関西学院史研究会

神戸・原田の森、知の交差点

—関西学院を通じた社会に関する知の形成—

戦前、神戸の原田の森にあった関西学院は、C. J. L. ベーツをはじめとする宣教師たちの存在によって、普遍的な知を追求する場となっていた。そこでは、欧米の学問や文化を模倣するのではなく、あくまでも独創性を追求することこそが、結果的に社会にとって重要な意味をもつという認識に基づいて、教育が行われていた。この意味で、原田の森の関西学院には、独特の世界があった。そこで、生まれた学的成果の一つとして、社会に関する知＝社会学を主に取り上げ、関西における新たな学問の潮流を生み出した知の交差点として、関西学院を捉え直してみたい。

講師

荻野昌弘 氏 おぎの まさひろ

関西学院大学名誉教授。パリ第七大学大学院社会科学研究所博士課程修了、博士（社会学）。専攻は文化社会学、歴史社会学、社会学理論。主な著書に『破壊の社会学：社会の再生のために』（関西学院大学出版会、2025年）、『中国雲南省少数民族から見える多元的世界：国家のはざまを生きる民』（明石書店、2017年）、『3・11 以前の社会学：阪神・淡路大震災から東日本大震災へ』（生活書院、2014年）、『開発空間の暴力：いじめ自殺を生む風景』（新曜社、2012年）、『零度の社会：詐欺と贈与の社会学』（世界思想社、2005年）、『資本主義と他者』（関西学院大学出版会、1998年）。

日時

2025.6.24 | 火 | 13:20-15:00

場所

関西学院大学図書館ホール（西宮上ヶ原キャンパス）

無料・申込不要・一般参加歓迎

主催：関西学院 大学博物館 学院史編纂室

0798-54-6022